

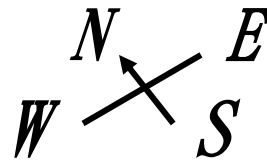
藤沢 エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット

主
な
記
事

- ・ 藤沢市役所新庁舎完成
- ・ 川崎先生を偲ぶ会 ・ 雪の結晶
- ・ 川崎公害 ・ 放射能測定値
- ・ 福島っ子 12 回保養にご支援を

2018年2月1日
第285号



<http://econet2015.sakura.ne.jp>

事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳

FAX 0466-87-4922

やっとわかってくれたのか？ 即時原発ゼロの必然性

「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）」が1月10日に、国内原発の即時廃止をめざす「原発ゼロ基本法案」の骨子を発表しました。

今から6年前、福島原発事故から翌年の2012年の衆院選。多くの国民が脱原発・卒原発を願う中で、脱原発をうたう政党のほとんどは、この背景からは勝って当然なのにまともきれず惨敗しました。この背景でも勝てなかった原因の一つとして、脱原発の政党の多くが推進していた「脱原発基本法案」の内容に以下のように、即時原発ゼロと受け取れない条文がある事と推測しました。

脱原発基本法案第3条「脱原発は、遅くとも、平成32年から平成37年までのできる限り早い3月11日までに実現されなければならない。」とありました。

37年まで待つのですか？その間に事故が起こったらどうするのか？廃棄物もたまり続けるんですか？この条文が致命的欠陥で、脱原発を求める市民の支持が得られなかった可能性があると感じた私は、翌2013年、それを確かめるために、脱原発の市民が多いと思われる場所で、この法案の是非について、シール投票を行いました。脱原発基本法案（第3条の廃止の時期）についてシール投票を行った結果

第1回 2013年1月25日（金）経産省前の歩道 賛成15人 反対21人 真ん中に貼った人12人

第2回 2013年2月8日（金）国会議事堂前の歩道 賛成7人 反対14人

第3回 2013年3月9日（土）東京 明治公園 つながろうフクシマ！さようなら原発大集会
賛成 6人 反対 49人

第4回 2013年 3月10日（日）東京日比谷公園 0310原発ゼロ☆大行動
賛成3人 反対63人 真ん中に貼った人 1人

以上のように、反対の数が圧勝しました。この結果を当時各野党に送付し、脱原発基本法案の修正を促しました。

そして5年後の2018年の今、野党第1党や自民党の元首相などが集まり、議員立法として「原発ゼロ基本法案」を推進し国会に提出の運びになりました。政治家の皆さんは即時原発ゼロの必然性をやっとわかってくれたのか？

と、半信半疑ながら、あたたかく見守りたいと思います。 （内藤 繁）



完成した藤沢市役所新庁

川崎先生を偲ぶ会

「川崎健先生を偲ぶ会～著作選集出版記念」が 1 月 20 日藤沢市内のホテルで行われました。

先生がご存命中に発案され、出版の準備を進めてきた著作選集「漁業科学とレジームシフト～川崎健の研究史」が編集委員のご努力により、昨年 11 月に出版されたことを記念して開催されたものです。

当日は水産関係者と東北大学の学者・研究者、科学者会議、地元の市民団体、先生のご友人など 79 人が参加し盛大な会となりました。

渡辺良朗さん（東北大学教授）と高松みどりさん（婦人民主クラブ）が司会をつとめ、最初に後藤仁敏さん（鶴見大学名誉教授）が開会のあいさつ、メイン企画の「川崎先生を語る－その功績と人柄」では先生の後継者である片山知史さん（東北大学教授）が「研究者としての川崎先生」、地元で一緒に活動してこられた島田啓子さん（ふじさわ9条の会）が「市民活動家としての川崎先生」と題して、片瀬漁港なぎさ問題や環境問題などに関する活動をそれぞれパワーポイントを使いながら熱く語りました。

その後 10 人の方々がそれぞれ先生との思い出を語りました。奥様の川崎典子さんのお礼のあいさつの後、閉会あいさつを同じ東北大学出身の私が述べて約 2 時間半のつどいを終わりました。

全体として感じたことは「レジームシフトの父」とも呼ばれる川崎先生の功績が世界的なもので、学会をリードしてきたこと、先生の人柄が誰からも親しまれ、信頼されていたことが改めて明らかになったことです。

なお、川崎先生の著作選集「漁業科学とレジームシフト～川崎健の研究史(3500 円)」の購入をご希望の方は藤沢エコネット事務局までご連絡ください。（大山正雄）

藤沢市役所新庁舎が完成

藤沢市役所新庁舎が出来上がり、開始前の 12 月 17 日に一般内覧会があった。

外見は箱型の大きな建物の上部に藤沢市のマークがひときわ目立っている。（1/4 から業務開始）

旧庁舎の本館は、戦後の昭和 25 年（1950 年）ごろに建設された 3 階建に望楼のある建物で 30 万人の都市になっても対応できるというものだった。

また新館は葉山竣市長の時代に、6 階建てで昭和 58 年（1983 年）6 月から業務開始し当時は広々したフロアだった。

受付でいただいたパンフレットによると、新庁舎は 10 階、地下駐車場があり 2015 年 9 月からの工期で完成した。施工は鹿島建設・門倉組とある。

案内に従って説明を聞きながら、また質問しながら要所を見学した。

市民の窓口は低階にありエスカレーターもあり便利だ。先ず 9 階から下の階へと廻ったが 9 階は市議会議場等があり、傍聴席も親子連れも入れる防音付きの部屋もあり、障がい者用にスロープもあった。立派だ、傍聴に行ってみたくなる。

10 階の屋上は特別に見ることができた（平常は見学できないとのこと）。太陽光パネルが設置され 50 kw の発電ができるそうだ。環境に配慮した所は他に風力発電、屋上緑化、壁面緑化、照明の自動管理などがあり省エネに配慮されていると感じた。

5 階は市民に貸出しの会議室があり、団体に貸出される。ただし、定員 18 人用が午前、午後、夜の区分で 1000 円する。大きいサイズは 60 人用で 2500 円。屋外はなんと、市民が楽しめる庭園がある。晴れた日にはお弁当をもって過ごせそうだ。

5F～10F の建物中央にはアトリウム（中庭）があり自然採光・自然換気を取り入れエネルギーを有効に利用する仕組み。階によっては通路がたくさんあり初めて行った時は、場所を見つけるのに苦労するかもしれない。

机も壁も全体に真っ白でありびっくり。ガラス窓は広く採光が充分でまぶしい。今まではタコ足のように分散されていた部所が統合されて良かった。

新庁舎は「本庁舎」、新館は「分庁舎」と呼ぶことになる。これからもお世話になる市役所、名所になるように大切に維持してほしい。（日比 遥）



雪の結晶は天からの手紙 関東雪結晶プロジェクトをご存知ですか？

1月22日、関東地方は久しぶりに大雪になりました。本州の南の海上を進む「南岸低気圧」によってもたらされたものです。

冬に南岸低気圧が来ると関東地方では大雪となるといわれていますが、そのメカニズムが、最近分かってきました。地球温暖化の影響で、北極海のバレンツ海の氷が融けると、偏西風が北にずれて蛇行する。→大陸のシベリア高気圧が北に拡大（寒気団が成長・発達）→日本への影響＋南岸低気圧が来ると関東地方に雪を降らせる（冬に大雪となるパターン）。

関東地方での大雪はこのパターンによってもたらされますが、雨になるのか、雪になるのか、雪の場合に積雪がどのくらいになるかは、気温のわずかな差によって異なり、正確な予報は困難とされています。今年もこれから、何回かこのパターンによる大雪に見舞われる可能性があります。

気象庁気象研究所では、関東地方の降雪現象の解明をめざし、データをたくさん集めるためにスマホなどで撮影した雪の結晶画像を市民から募る「#関東雪結晶プロジェクト」を進めています。集まった画像情報から雪結晶構造を読み取り、首都圏の降雪現象の実態の解明をめざします。

雪結晶画像の撮影方法、データ送付方法など詳しくは検索：「#関東雪結晶プロジェクト」

先日、雪が降っている時に、不用になった手帳の表紙を玄関先に出しておき10分後にスマホにKenkoの接写レンズを付けて雪の結晶を撮影してみました。

関東地方で多くのデータが集まるならば、より正確な予報ができるようになると考えられています。多くの市民（子どもでも可）が参加しませんか？！（宮地俊作）



荒木健太郎氏撮影（気象庁気象研究所）2017.1.20

川崎公害

祖父は鉱山師で、浅野財閥の創始者について、セメントの原料の石灰を探しに全国の山を歩き回っていた。父は人事総務関係で人集めに追われて21歳から70歳までセメント工場に50年間勤め、煤煙を吸い続けた生活だった。戦後昭和22年「日本国憲法」ができ、「戦争放棄」をうたう憲法第9条を持つ民主主義国家ができた。私は新しい憲法とともに小学校を入学。新任の女性の先生は、両親を戦争で失っており、私たちを「民主主義の申し子だから」と言って優しく教えてくれた。この美しい先生を私は忘れることができない。

財閥解体が終了して、私たち家族はまたまた転勤、生まれて5回目の引越しになった。今度は京浜工業地帯の中心地「川崎」だ。住まいは多摩川沿いで、河口から10Km北に入った南武線沿線だ。多摩川の土手から50mだった。台風の際、土手まであと3センチの洪水となり、あまりの恐ろしさに見つめ続けて離れられなかった。

学校では九州弁丸出しで“田舎っぺ！”と言われ、イジメに毎日あった。何も言わずに殴られ、学校の帰りが怖かった。そこで九州の炭鉱夫の子、兄貴分が思い出され、ケンカのやり方を参考にした。朝太郎は「まず一番強そ



（24時間煤煙煙を出し続ける川崎工業地帯）

うな親分に近づき、先制攻撃し、立ち上がれないほどやり込めること。一度成功すれば、二度とイジメには会わなくなる。」その

通りに実行し、うまくいった。父の気管支ゼンソクの発作は、春と秋季節の変わり目に必ず起きた。ある時生活費に困りセメント工場に給料を恥ずかしながら母と二人でもらいに行った。鶴見線の浅野町の煤煙の中を歩いて、埃だらけの工場に行った。年に2～3か月も休む社員で、クビにしない会社が不思議でならなかった。戦後の復興景気で、見逃してくれていたようだった。「公害」という言葉もまだ誰も知らなかった。私はこんなところで働きたくなかった。母の話によると「セメントのご飯がのどにつかえて、食べられない！」と熱を出した時、私はうなされていたとか！それは父の職場を見てからの事だった。その頃には、父の左肩に兄貴分のように、平気で発作止めの注射ができるようになっていた。つづく（国枝 健）

ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南 第12回開催

福島原発事故から7年を経て、記憶が薄れつつある今日ですが、事故後に生まれた子どもたちにも、だるさや鼻血などの症状がみられることがあります。児童の甲状腺ガンの発症者も200人に上り、まだまだ増える傾向にあります。放射線量が年間20ミリシーベルの許容量で暮らす福島の人たちは、除染がいくら進んでいても、ホットスポットは至る所にあるので、心から安心して暮らすことができないでいます。

福島の母親たちは、子どもが外でなるべく遊ばないように、葉っぱを触らないように、放射能で汚染された食べ物を食べないように等など、毎日気配りして生活しています。

そのような福島の親子を約40人、湘南に招き、自然いっぱいの藤沢市少年の森や横浜・こどもの国で、安心して自由に遊んでもらおうと、この3月の春休みに12回目の「ふくしまっ子リフレッシュ IN 湘南&こどもの国」を開催します。

今までに延べ125家族、352人が参加し、とても喜んでいただきました。総費用は1028万円を超えました。国の助成金を受けたいのですが、「子ども被災者支援法」に基づく「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」は福島県内の団体にのみ適用されるため、当会は活用できません。毎年要望を国へ出しています。

春のリフレッシュの費用は約100万円です。皆様の温かいご支援をお待ちしています。また、ボランティアも募集しています。是非ご協力をお願いいたします。(http://fuku-refl-shonan.sblo.jp/)

(福島の子どもたちとともに・湘南の会 青柳節子)

放射能測定値 (市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 (μ Sv/h) 計測日 1/12

1/23 雪の翌日

円行民家 雪の上の庭 100cm 0.063

同じ場所 5cm 0.035

1/28 藤沢駅前 地下の飲食店内 0.053

1/28 藤沢名店ビル 4F 0.054

ECONET INFORMATION

▲講演「マーシャルの人々は今」

講師 武本匡弘さん (プロダイバー)

2018年2月4日(日) 14:00-16:00

市民会館第1展示ホール 参加費500円

主催 ピースリレーふじさわ



◆シンポジウム：企業の再エネ選択と電力会社

日時：2月8日(木) 14:30~17:30

東京ウィメンズプラザ (表参道駅から徒歩7分)

参加費：1000円 (学生500円)

主催：パワーシフト・キャンペーン

URL: http://power-shift.org/180208_symposium/

▲神奈川から見る気候変動

講師 西岡秀三氏ほか

2月15日(木) 14:00~ 入場無料

地球市民かながわプラザ (本郷台駅前)

申込み/主催 県環境計画課

☎045-2104-4065

2/8までに申し込みを



▲原発事故から7年

不条理と闘い生きる思いを語る

2月17日(土) 13:00-18:00

福島県青少年会館 (福島駅から徒歩で)

参加費 無料 200人

問合せ 090-6601-6786

主催：飯館村放射能エコロジー研究会

協力 福島の子どもたちとともに・湘南の会ほか

▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 2月9日(金) 14:00~

市民活動推進センター

《編集後記》穏やかな正月であったが、寒中に入り、関東も大雪に見舞われ、そして白根山噴火と天変地異が続く。その上Jアラートという全国瞬時警報システム訓練の知らせがあった。時間的余裕のない大規模自然災害や弾道ミサイル攻撃等の伝達を行う訓練という。仮想敵を作り、子ども達がいたずらに怖い思いをするなど、戦争への準備ともとれ、抗議の電話や要望が多く、当日は小さい音となったようだ。(A)